

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200395		
法人名	社会福祉法人和仁福祉会		
事業所名	グループホーム「ぬくもりの家」		
所在地	宮城県石巻市大瓜字箕輪17番地		
自己評価作成日	令和 7 年	1 月	7 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 7 年	2 月	19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「その人らしくいきいきと」を職員一人ひとり意識しながら支援に当たり、家にいた時と同じ様に生活して頂いている。昨今の、感染症の流行により外出の機会が少なくなりましたが、徐々に外出の機会を増やし気分転換を図って頂いております。また、レクリエーションに力を入れ、手足の筋力をつけて頂く為、体操・歩け歩け等毎日行っております。入居者の皆様は、生活の中で役割を持ち、協力しながら過ごされております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR石巻駅から車で10分程の小高い閑静な所にある。敷地内には、同法人の特別養護老人ホームやデイサービス、居宅介護支援事業所があり協力関係にある。木造平屋造りの1ユニットで、全員が顔馴染みで家庭的な雰囲気である。職員は、一人ひとりに合わせたケアに取り組み「その時々を大切に、一緒に笑える」支援にあたっている。ホーム内には手作りのフェルト作品やスクラッチアート等で季節感がある。リビングでは体操やゲーム、合唱等と楽しく過ごす工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、必要に応じて支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で説明し、納得され捺印を頂いている。その他、説明の際、よくある質問も付け加えて説明するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族様・入居者の皆様にアンケートを実施し、また面会の際も、意見・要望を頂き反映するようにしている。	家族からは季節に合った行事をしたり、日常生活では、入居者を大事にもらっていると声がある。面会時や通院時には、家族と外出や食べる楽しみになっている。治療の為、家族の希望で代替食を提供している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、意見を出してもらい、より良い運営が出来るよう反映させている。	職員からシフトの見直し希望が有り、入浴時間帯など業務配分を改善した。食事の配食業者利用を検討したが現状維持とし、改めて手作りの良さを見直した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に則り、しっかり行っている。休憩時間、年休もきちんと取れるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、特養と合同の勉強会を行いスキルアップに取り組んでいる。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は今年度も行っていないが、その分、サービスの向上について、職員一人一人が考えながら取り組んでいる。	デイサービスの行事からヒントを得ておやつバイキングをした。入居者の反響から特養管理栄養士の協力を得て、バイキング用の料理の考案に繋げた。入居者の体調不良時は法人の看護師からアドバイスを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの関係を大事にし、話やすい環境を作り、入居後も不安なく過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み頂いた時点から、困っている事、要望を伺い、入居後も相談しながら協力し、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、家族様の困っている事や要望を伺い、当施設で出来る内容が見極め、他のサービスを勧めることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共生していることを心掛け、入居者様と一緒にいる事を大切にしている。また、困ったことを手伝ったり、良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の対応について、家族様と職員で協力・相談しながら支援し、より良い関係を築けるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度も、行き来が難しい状況だった為、手紙や電話でやり取りが出来るよう支援している。またドライブで自宅方面へ出掛けている。	友人との繋がりが途絶えないように、はがき等の支援をしている。幼馴染みが会いに来た方もいた。市内のドライブコースは季節ごとに桜やつつじ、藤の花等を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で居室を訪問しあったり、リビングでの会話を楽しんで頂いている。関係がうまく築けない方は、職員が仲介に入り、スムーズにコミュニケーションをとって頂くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も出来る範囲で様子を見に行くことや、家族様へ近況を確認し、その後の相談・支援が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段とは違った言動等に注意し、不安や希望を聞き取るようにしている。カンファレンスでは、本人の意向、本位を尊重し行っている。	普段から、一人ひとりに寄り添い傾聴している。入居者の思いや願いは「家族に会いたい」が多い。思いを受け止めて家族に繋いだり、ドライブで自宅周辺を見て帰ってくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や、入居後も多くのコミュニケーションを図り、バックグラウンドの把握に努め、カンファレンスや支援に活かす様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する力をスタッフ一同把握し、情報共有をきちんと行いながら支援に当たっている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは、ご本人の意向や、職員、家族様からの意見を活かしケアプランの見直しをしている。	本人や家族、医師等の意向や意見を聞いてプランを作成し、家族の同意を得ている。家事支援の継続で配膳や洗濯物たたみ等も入れている。居室にぬいぐるみを戸に貼り目印にすることも入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、モニタリング表の記録や、申し送りノートを共有しケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、家族様のニーズに合わせ通院やAI導入等柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も地域資源を利用した支援が出来なかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医をそのまま利用している。通院が難しい方は、訪問診療を受けられるように支援している。	訪問診療は1名で、他は、かかりつけ医を受診している。受診時は、家族がバイタル表を持参して付き添っている。緊急時には、職員が付き添う。協力歯科医は、治療が必要な時に往診する。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状況に応じ、併設施設の看護師や訪問診療看護師等に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、地域医療連携室とまめに情報交換を行い、できるだけ早期退院にむけた相談をしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から意向の確認をしており、状態の変化がみられた際、再度確認を取りながら対応している。重度化した場合、医師、家族を含めた話し合いを行い、住み替えのための支援を行っている。	入居時に「契約書」と「将来についての意向確認書」で終末期の過ごし方を伝え、看取りはしない事を説明している。状態に応じて、医師や家族を含めて話し合い、入院か特養か等の住み替えを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予測される入居者個々のもに対応・連絡のマニュアル作成し、家族様とともに確認している。また、特変時の対応のもマニュアルを電話の近くに貼り、見ながら対応できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の併設施設との避難訓練、毎月の図上訓練でシュミレーションを行い実際に備えている。	夜間想定を含めて避難訓練を年2回実施している。地域住民の協力強化に向けて、運営推進会議メンバーの区長に避難時の見守り依頼を検討している。非常用時の備蓄や交換等は担当者を配置して実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、失礼のないような言葉遣い・接遇を意識している。トイレ、入浴支援でも恥ずかしさを感じない様に関わっている。	名前は基本「さん」付けだが、本人と家族の希望で「ちゃん」付けの方が1名いる。トイレでのパッド交換や入浴時にはカーテンや戸を閉めている。入居者の尊厳を守る為、言葉使いに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのスタッフにも話やすい雰囲気を作り、何でも話せる関係を築いている。また、日常生活においても自己選択できる場面を多く作り、希望通りの生活をして頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、したい時にしたいことが出来、強制することなく伸び伸びと生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容を利用したり、ヘアカラーを楽しまれる方も多いです。一人ひとりの好みに合わせたおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けまで皆さんと行います。また、誕生日には、ご本人様の好物を提供しています。行事食も季節を意識して頂けるように工夫しています。	献立は特養の管理栄養士の指導を受けて作成している。季節感や入居者の希望等を取り入れ、代替食や刻み食にも対応している。入居者は調理や片付けも参加して意欲的に過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士に献立をチェックして頂き、栄養バランスの摂れた食事の提供を行っている。食事量は、本人希望で少なめの方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、ご自身で行って頂きます。見守り・介助が必要な方は、リビング脇の洗面台にて行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのタイミングに合わせて介助に入るようにしており、声掛けも失礼のないように徹底している。排泄グッズもその方の状態に合わせてものをその都度検討・話し合いをしている。	共用トイレは、車椅子対応なので、ゆったりしている。夜間はオムツ使用の方も、日中は職員の声掛けでトイレで排泄している。失敗時には声掛けのトーンや言葉かけに気配りして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の活動での運動を増やしたり、歩行運動を取り入れている。また、水分補給や、食べ物を工夫し便秘予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの希望・タイミングで入浴出来るよう声掛けをしている。入浴中は、職員と会話を楽しくて下さる入居者様が多いです。	1日おきに風呂に入り、気持ち良さを楽しんでいる。一番風呂希望もあり応じている。ゆず湯やしょうぶ湯もある。拒む方はいない。法人特養の機械浴は必要に応じて使える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝も皆様のペースで休んで頂き、夜間帯も眠れない時などは、温かい飲み物を提供したり、話し相手をするもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用が確認できる専用ファイルを作成し、職員一人ひとり繰り返し確認している。服薬時は声出して日付、食事ごとの確認を行い記録にも残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に日課にしていた事や、得意な事、趣味等を活動に取り入れている。また、楽しみ事は定期的に気分転換を図れるよう企画、実施している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、希望通りの外出はなかなか出来ませんが感染対策を十分に行い、ドライブに出掛けたりしています。	日常的には敷地内のベンチで外気浴をしたり、体調と天候に合わせて近隣散歩をしている。散歩コースで犬に出会うと喜んで触れ合っている。外出の年間行事があり、神社の初詣や花見、紅葉見学を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは金庫にて管理し、希望がある時は、ご本人が欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話でお話して頂いたり、季節の挨拶のハガキ、近況報告のお手紙を出せるように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月に季節を感じて頂ける掲示物を工夫しています。	共用スペースには、入居者と一緒に作った豪華な羽子板や桜のぬり絵、鯉のぼり等季節を感じる飾りがある。リビングでは、ゲームをしたり、合唱も穏やかに楽しんでいる。温度や湿度管理も良く、換気は、昼寝中等のタイミングを見て行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室前や廊下の椅子に腰かけ、掲示物を楽しんで頂いたり、一人の時間を楽しんで頂いたり、入居者同士で会話を楽しめる環境づくりをしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の部屋となるべく変わらない様に、たんす、仏壇、TV、こたつ等、馴染のものを置くことで安心して生活して頂いている。	居室には、ベッドや洗面台、エアコンが備え付けてある。テレビや衣装箱を持ち込み、家族写真等、馴染のものを飾って居心地良く過ごしている。仏壇を置いている方もいる。掃除が得意な方は廊下まで手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者の皆様が分かりやすいように、トイレ、居室の表示、浴室の暖簾、カレンダーを使用し自立した生活を送れるよう工夫している。		